HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	観光が地域の未来を拓く ： 観光まちづくりへの期待
Author(s)	石森, 秀三
Description	第一部: 第6回観光創造フォーラムの記録. 添付資料2
Relation	次世代まちおこしとツーリズム ： 鷲宮町・幸手市に見る商店街振興の未来 = Community Development and Tourism for the Next Generation
Citation	CATS 叢書, 4, 67-70
Issue Date	2010-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/42924
Rights	© 2010 石森秀三
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS04_011.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

【資料 2】観光が地域の未来を拓く～観光まちづくりへの期待～

石森秀三（北海道大学観光学高等研究センター長）

１．なぜ鷲宮町は観光地ではないのか？

（１）旅行会社が注目する観光資源がない→旅行商品の対象外

（２）地域住民が観光地であることを望んでいない

２．日本の観光が変わる

（１）２０世紀は「他律的観光の時代」

＊パッケージツアー依存＝旅行会社が主導する観光

（２）他律的観光の３要素

＊団体旅行＋名所見物＋周遊

（３）２１世紀は「自律的観光の時代」

＊「団体旅行」から「個人・夫婦・家族・小グループ旅行」へ

＊名所見物型観光から参加体験・自己実現型観光（学び・癒し観光）へ

＊「周遊型観光（ファーストＴ)」から「滞在型観光（スローＴ)」へ

（４）「観光（視覚重視)」から「感幸（五感重視)」・「歓交（交流重視)」へ

（５）「観光の量」重視から「観光の質」重視へ

３．日本の地域が変わる

（１）少子化による人口減少＋長寿化＝地域社会の変化＋産業構造の変化

（２）2030 年における地域経済規模予測（経済産業省、2005 年）

＊大都市圏と一部の地域を除いて、ほとんどの地域で経済規模縮小

＊とくに北海道の各地域における経済規模縮小が顕著になる

（３）地域経営の転換：「定住人口」重視から「交流人口」重視へ

＊第１の市民＋第２の市民＋第３の市民

＊「定住人口（第１の市民)」重視から「交流人口（第３の市民)」重視へ

＊「自治体による地域経営」から「多様な市民参画による地域経営」へ

（４）観光を基軸にした地域活性化の創出

（５）地域間競争の激化＝観光をめぐる大競争時代

４．観光をめぐる地殻変動＝観光立国の時代

（１）国家的課題としての観光＝観光立国懇談会（2003 年１月発足）

（2）観光立国宣言（2003 年 7 月）、国土交通大臣＝観光立国担当大臣
（3）観光立国＝住んでよし訪れてよしの国づくり＋暮らしといのちの輝く国づくり
＊観光立国推進基本法制定（2006 年 12 月）＋観光庁の新設（2008 年 10 月）
（4）学界における新しい動き
＊北海道大学観光学高等研究センター（2006 年 4 月新設）
＊北海道大学大学院観光創造専攻（2007 年 4 月新設）

5．日本人の暮らしが変わる
（1）自然環境破壊、ヒト体内環境の破綻、ヒトの心の破綻
＊ボディ（からだ）とマインド（こころ）とスピリット（たましい）の一体化
（2）日本人の国民性調査
＊イライラ感の増大（とくに 20 歳代～30 歳代）
＊生活水準の低下感・貧困意識の増大
＊一番大切なものは「家族」
＊人のためになることをしたい（20 歳代で 43％、30 歳代で 52％）
（3）ワーク・ライフ・バランスの実現
＊自らの人生の見直し＝「無用の用」の価値＝美しき成熟
＊ＧＮＰ（国民総生産）重視からＧＮＨ（国民総幸福）重視へ
＊憲法 13 条に「国民の幸福追求権」
（4）人生をいかに楽しむかが重要になる→旅行需要の増大→内需拡大
＊ウエルネス・ツーリズム、クリエイティブ・ツーリズム
（5）成熟社会における新しいライフスタイルの創造＝ライフスタイル起業家の時代
＊食、住、遊、学、健、美にかかわるライフスタイル
＊新しいライフスタイルを求めて、アメニティ・ムーバーが動く

6．日本の各世代が抱える人生問題
（1）若年世代の抱える人生問題
＊ニート問題、若年雇用問題、草食消費、引き籠もりなど
＊若い世代の旅行離れ、若い世代のスポーツ離れ？
＊なぜ「ユース・オリンピック」（14 歳から 18 歳が対象）が必要なのか？
＊ヲタク・ツーリズムの可能性
（2）団塊世代によるライフスタイル・イノベーション
＊団塊の世代（1947 年～1949 年生まれ）＝約 700 万人（人口の 5.5％）
＊100 万人ふるさと回帰・循環運動
＊団塊の世代は日本を変えるか？
＊二地域居住によるセカンドホーム・ツーリズムの可能性

（3）老年世代の抱える人生問題

＊一人平均 3500 万円を抱えて死ぬ日本人の人生は素晴らしいか？

＊1500 兆円に及ぶ個人金融資産の有効活用は可能か？

＊ハッピー・リタイアメントはあり得ないのか？

＊日本人は人生を楽しむことができるか？

＊日本人にとって人生とはなになのか？

（4）旅行機会のさらなる減少

＊有給休暇取得率 46％で低迷　→有給休暇完全取得の実現は可能か？

＊「有給休暇完全取得法」の制定は可能か？

＊「旅育推進法」の制定は可能か？

＊「旅行減税」の導入は可能か？

7．観光は鷲宮町の未来を拓くか？

（1）ニューツーリズムの活発化

＊地域医療・健康・保養システムの確立による「ヘルスツーリズム」

＊エコミュージアムを前提にした「エコツーリズム」

＊農地改革・農村再生を前提にした「グリーンツーリズム」

＊歴史文化基本構想による「カルチャー・ツーリズム」

＊伝統産業・地場産業をベースにした「産業観光」

＊メディアコンテンツをベースにした「ヲタク・ツーリズム」

＊ジオパークを前提にした「ジオツーリズム」

＊二地域居住を前提にした「セカンドホーム・ツーリズム」

（2）ニューツーリズムとしての「ステイケーション」

＊ステイ＋バケーション＝ステイケーション（合成語）

＊自宅で連続休暇を過ごすこと

＊経済不況の米国で生じた現象

＊ホームタウンでの観光を楽しむ

（3）セカンドホーム・ツーリズムのすすめ

＊「都市と農山漁村の対流・共生事業」の活用

＊鷲宮町と農山漁村との交流促進

＊町民のためのセカンドホームによる市民観光

（4）ボランティア・ツーリズムのすすめ

＊人のためになることをしたい（20 歳代で 43％、30 歳代で 52％）

＊鷲宮町の人たちのためになるツーリズムはありえないのか？

（5）「鷲宮町のお宝発見隊」のすすめ

＊鷲宮町のお宝＝地域に対する「誇り」や「愛着」の源泉

＊鷲宮町のお宝＝鷲宮町のＧＤＨ(市民総幸福)の源泉
＊町民のためのお宝＝町民が「人生を豊かに楽しむ」ための財産・資源
＊町民によるお宝さがし＝鷲宮町のお宝発見隊

（６）地域資源（鷲宮町のお宝）の活用
＊中小企業地域資源活用促進法（2007 年に施行）にもとづく事業
＊全国の地域資源 10,922 件（農林水産品 3328、鉱工業品 2421、観光資源 5173）
＊観光資源が 47％だが、認定新規事業 527 件のうち、観光資源活用事業は 40 件（7％）
＊農商工連携促進法（2008 年に施行）の活用

（７）体験型観光の可能性
＊ふるさと子ども夢学校（子ども農山漁村交流事業）
＊企業向け旅行型健康増進プログラム＝ヘルシーカンパニー

（８）人材育成の重要性＝「地域磁力の源泉」としての人材
＊国家資格としての「観光創造士」制度の創設

（９）ＰＲ・情報発信の重要性／インターネットの活用

(10)「もてなし」の向上＝地域住民による「もてなし・おもいやり」の重要性

(11) 観光振興の王道
＊歳月をかけて、「民産官学の協働」で自律的に地域資源の持続可能な活用を図ること